

## 明治の頃の成田道



安食の町は成田道から銚子道沿いから安食河岸にかけて、家々が並んでいます。

1798年『成田の道の記』では新勝寺から成田道をたどり、安食の旅籠で一泊して、長門川を渡り銚子道で木下へ向かい江戸へ戻った旅の様子がつづられています。

成田・栄・房総のむらミュージアムタウンマップより



千葉県中央博物館所蔵資料「千葉博覧会」より

明治20年代の泰上醤油工場。江戸時代末期の創業で利根川の水運を利用して、江戸方面に出荷していた。安食河岸のすぐそばにある。今はほとんど残っていないが、ウォーキングコース『安食の道2』をもとに古い蔵などお楽しみ下さい。



三ヶの岩屋はウォーキングマップ『龍角寺七不思議の道』『成田道1』を見て下さいね。

### ①みそ岩屋古墳

一辺約35m、高さ約4.7mの方墳。規模は小さいが、三段築成で岩屋古墳と共通する要素が多く、後続する墳墓と考えられる。龍角寺七不思議三ヶの岩屋の一つに数えられている。



### ②素羽鷹神社

1659年棟札が残り、中世まで遡ると考えられる酒直の産土神。龍角寺の天竺西方浄土の守護神として信仰を集めた。1月22日にはオビシャ行事が行われている。



### ③多宝院

本尊は十一面観世音菩薩。1861年に再建。正面の外陣を見上げると鏡天井に龍や天女が描かれている。作者は赤松宗旦の著作「利根川図志」の挿



絵を手がけた絵師玉峨である。

### ④田中不動尊

田中不動の境内には、江戸時代末期に祭られたみごとな「くりから不動」の石仏がある。龍が剣に巻きつき、まさに



剣先を飲み込もうとしている姿です。

## ちょっとより道



### ◆くりからって何？からくりではないよ。

「くりから」はインドの古語サンスクリット語が由来でインドのクリカという竜王の名前が元になっており俱利伽羅と書く。「龍」または「黒龍」を意味している。不動明王が持っている剣にからみついている竜王をくりから龍といい不動明王の化身とされている。滝口や清水の湧き出る水辺に祀られることが多い。

平成21年度長寿社会づくりソフト事業

## ウォーキングコース(成田道2)

～成田山に続く道をゆく～



下総名勝図絵より

編集・発行

のらりくらり健康バーチャル

ウォーキング実行委員会

事務局：千葉県印旛郡栄町安食301-1

0476-85-1661

<http://hitomati.net>